

トリフミン[®]乳剤

TRIFMINE

登録番号 第17375号

種類名 トリフルミゾール乳剤
triflumizole

殺菌剤分類 3

性状 淡黄色澄明可乳化油状液体

有効年限 4年

有効成分 トリフルミゾール 15.0%

毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

危険物 第四類第2石油類 危険等級III ポリアルキルベンゼン 火気厳禁

包装 (100mℓ×10本)×6箱、500mℓ×20本

■特長

1. ばか苗病・ごま葉枯病・いもち病に対し高い効果を示します。
2. 乳剤なので、稲種子消毒に対し薬剤の計量・希釈が簡単で、容易に浸漬液が作れます。
3. 懸垂性が良く、長期間浸漬でも沈殿がなく、浸漬の途中で攪拌の必要がありません。
4. 薬液中のエマルジョン粒子が微小なため、もみ表面の微細構造部までムラなく薬剤が付着し、効果を高めます。
5. もみ表面への薬剤の付着性が高く、薬剤の流亡が少ないことから、浸漬後の風乾を省き、水切り後直ちに浸種することも可能です。
6. 低温期の種子消毒でも効果が安定しています。
7. 果菜類にはうれしい汚れの少ない乳剤です。

最新の登録内容、
SDSはこちら

■適用病害名及び使用方法

(2023年9月1日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	トリフルミゾールを含む農薬の総使用回数	使用方法
稲	ばか苗病 ごま葉枯病 いもち病	30	-	浸種前	1回	1回	10分間 種子浸漬
		300					24～48時間 種子浸漬
		5～10	乾燥種もみ 1kg当り 希釈液30mℓ				種子吹き付け処理 (種子消毒機使用) 又は塗沫処理
小麦	赤かび病	1,000	60～150 ℓ/10a	収穫3日 前まで	3回以内	3回以内 { 種子粉衣は } 1回以内	散布
	うどんこ病						
きゅうり	うどんこ病	2,000	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	5回以内	5回以内	
なす	すすかび病						
トマト ミニトマト	葉かび病						
きく	白さび病	1,000	-	-	-	-	
こんにゃく	乾腐病	30	150mℓ/ 種いも1m ²	植付前	1回	1回	種いもの 芽基部に散布
チューリップ	球根腐敗病		-				-

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. 稲の種子消毒に使用する場合には、次の注意事項を守ってください。
 - (1) 種子消毒は浸種前に行い、消毒後は水洗いせずに浸種してください。
 - (2) 浸漬処理の場合、もみと処理薬液の容量比は1：1以上とし、種もみはサラン網などの粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
 - (3) 薬液の温度は極端な低温をさけてください。
 - (4) 吹き付け処理の場合は種子消毒機を使用し、種もみに均一に付着させて乾燥させてください。また塗沫処理の場合は適当な容器内で種もみを攪拌しながら薬液を滴下するなどして、種もみに均一に付着させてください。
 - (5) 本剤の処理を行った種もみを浸種する場合は、次の事項を守ってください。
 - ① 浴比は1：2とし、停滞水中で浸種してください。
 - ② 河川、湖沼、ため池などでは浸種しないでください。
 - (6) 本剤の処理により軽度の初期生育遅延が認められる場合もありますが、その後回復するので通常の管理を維持してください。
3. ウリ科作物の幼苗期には、濃緑化症状および生育抑制が生じることがあるので、使用しないでください。
4. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
5. 自動車等に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないように注意してください。
6. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意   

7. 誤飲などのないよう注意してください。誤って飲みこんだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせてください。また、使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
8. 原液は眼に対して強い刺激性があるので、薬液調製時には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないように注意してください。
また、散布液も眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
9. 皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
10. 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換してください。
11. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
12. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
13. 薬剤処理した種子は、食料・飼料に用いないように注意してください。

水産動植物への影響：浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密栓し、火気及び直射日光を避け、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な場所に保管してください。

○空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

●トリフミン乳剤の上手な使い方

稲の種子消毒に使用する場合

- ①処理後長時間保存する場合には、薬剤処理を行ったことを明記し、間違えないようにしてください。
- ②箱育苗の場合、は種前に床土に十分に灌水し、覆土後の灌水は原則として行わないでください。灌水量が少ないと一般に根上がりの原因となるので、灌水量は少なくとも1ℓ以上としてください。
- ③過度な高温での出芽は行わないでください。

【農薬をご使用の際は】

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には、使用しないでください。
- 小児の手の届く所には、置かないでください。
- 空容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。